

物流をアウトソーシングしたら、今度は商品撮影に時間がかなり困っている。

連載

20

売れ続けるショップの物流ノウハウ教えます

EC物流在庫管理で失敗しないここだけの話

直接関係のなさそうな「商品撮影」と「在庫管理」という2つの業務ですが、意外なことに物流在庫管理ASPサービスを展開する弊社にも「商品撮影」に関する問い合わせをいただきます。とくに多いのが物流のアウトソーシングをする

ことで、商品の保管場所と撮影するスタジオに距離ができてしまい、商品の移動に時間もコストもかかってしまう問題を解決したいというものでした。たしかに入荷した商品をスタジオに移動して撮影、また倉庫に戻すことを考えると、2回分の送料と2-3日の輸送時間が必要になります。今回は、商品撮影にまつ

わる問題をまったく異なる方法で解決しようとしている2つの事例をご紹介します。

■もう一度自社物流に戻すという決断
 アパレル・ファッション雑貨を扱うA社も、撮影のための商品の横持ち（拠点間移動）に悩まされていた。とくに商品単体ではなくコーディネートによる撮影を重要視していたのですが、倉庫からの商品移動にかかる時間や運賃のことを考えて、持ち合わせの商品で撮影を済ましてしまうこともあったそうです。

業務を自分達でやるという決断をしました。物流・アウトソーシングという時代の流れに逆行した決断で、

■撮影業務も物流会社に委託するという決断
 同じようにアパレルを扱

うB社は、撮影スタジオを併設した物流会社にアウトソーシングをすることで問題解決を図りました。以前は、大手通販会社が自社の物流拠点に多額の投資をして撮影スタジオを併設する事例はありましたが、中小規模のネットショップでは

なかなか実現することは難しいのが現状でした。しかし、最近では撮影スタジオの貸し出しや、撮影・採寸・コピーライティングなどの業務自体をアウトソーシングで受ける物流会社も出てきています。商品単体での撮影が中心だったB社はこのサービスを受けることで商品の無駄な移動を減らすことに成功しました。

大幅に短縮され、いままでも数日早く販売を開始できるという効果が出ています。

異なる解決策を選んだ両社ですが、商品の保管と撮影を同じ拠点で行うことで多くの無駄を削減している点では共通しています。

アウトソーシングを検討する際に、出荷にかかわる作業単価や作業精度を判断するのは当然ですが、さらに撮影などの周辺業務についての付加価値も合わせて検討することで、より大きな業務改善が期待できる可能性があります。



商品の横持ち（拠点間移動）は時間的にもコスト的にも無駄が多い。商品保管と撮影は一体で行うことが理想です。

教訓

ネットショップの物流在庫管理は何でもご相談下さい！

ロジザード(株)

金澤 茂則 代表取締役社長

(月1回掲載)